

第2章 教育を取り巻く社会情勢と本町における教育の現状

1 社会情勢

(1) 人生100年時代の到来

日本では、人口が減少する一方で平均寿命が伸び続けています。今後到来が予想される人生100年時代にいきがいを持ち、豊かに過ごすためには、生涯にわたって学ぶ機会があり、その学んだ成果を活かせる環境の充実が求められています。

(2) 超スマート社会 (Society 5.0*)

Society 5.0とも呼ばれる超スマート社会は、人工知能(AI)、IoT、ロボットなどの先端技術があらゆる産業や日常生活に取り入れられ、社会のさまざまなニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、快適に暮らすことのできる社会とされています。

こうした社会に適応できるよう情報活用能力を育成するとともに、人間らしく生きる能力を育むことが求められています。

(3) グローバル社会*

グローバル社会は、地域だけではなく、世界規模で互いに影響し合う社会であり、政治や経済だけではなく、文化芸術、情報などの分野のほか、気候変動や自然災害、感染症などの課題も連鎖的に発生し、深刻な影響を及ぼすことがあります。

グローバル化や情報化の急速な進展など、変化の激しい時代を生き抜くためには、我が国や郷土の伝統や文化を受け止め、その良さを継承・発展させるほか、異文化体験や多様な価値観をもつ人々との交流により、自らが主体的に行動できる能力を育むことが求められています。

(4) 共生社会*の実現

多様性や人権、生命を尊重する心を育成するとともに、障がい、言語、成育環境などに関わらず、一人ひとりの個性を認めて大切にするとともに、誰一人取り残さない教育を推進する共生社会の実現が求められています。

(5) 持続可能な社会に向けた動き (SDGs)

平成27年9月の国際サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、持続可能な開発目標(SDGs)が掲げられ、特に教育分野では、「すべての人々への包摂的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことが求められています。

*Society5.0…サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。

*グローバル社会…地域や国家のレベルを超えて、世界規模でお互いに影響を与え合う社会形態。

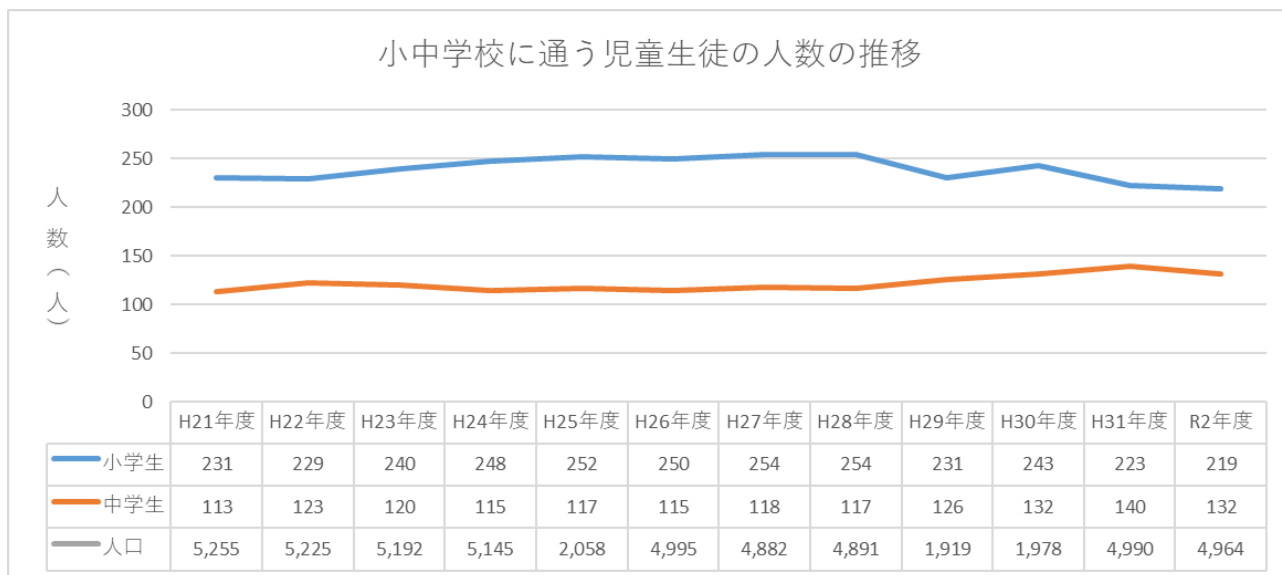
*共生社会…性別、年齢や障がいなど、人それぞれの違いを受け入れ、個性を尊重し支え合い、互いに認め合う社会。

2 本町における教育の現状

(1) 小中学校及び認定こども園児童生徒数の推移

本町には、認定こども園、上士幌小学校及び上士幌中学校があります。子どもたちが安心して学べる教育環境づくりに努めるとともに、次世代を担う社会の宝である子どもたちの健やかな成長を目指し、生きる力を育む様々な取組を進めています。

【小中学校】



【認定こども園(旧保育所)年度末児童数及び卒園児数】

